授業科目	神経系疾患 A	担当教員	阿部　鯛一		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・救急救命士に必要な脳・神経系疾患を理解する。				
到達目標	・神経系疾患傷病者への対応ができる。				
テキスト・ 参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・配付資料　等				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の 留意事項	レポートを課す場合がある。不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	疾患理解に必要な基礎知識	神経系の構造と機能
	2	疾患理解に必要な基礎知識	神経系疾患の主要症候
	3	疾患理解に必要な基礎知識	緊急度・重症度の判断　JCS/GCS の理解
	4	おもな疾患①	脳血管障害（くも膜下出血、脳出血、脳梗塞）
	5	おもな疾患②	脳血管障害（TIA、脳動静脈奇形、もやもや病）
	6	おもな疾患③	髄膜炎、脳炎、脳腫瘍、脳膿瘍
	7	おもな疾患④	中枢疾患系の感染症
	8	おもな疾患⑤	末梢神経疾患
	9	おもな疾患⑥	その他の中枢神経疾患
	10	まとめ	総合問題演習

授業科目	神経系疾患 A	担当教員 実務経験	川島清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	心肺停止ⅡB	担当教員	阿部　鯛一		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	・心肺停止患者の病態・処置を学び、理解する。				
到達目標	・蘇生のメカニズムを理解し、心肺停止傷病者に対して、適切な活動ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	前回の授業の復習として確認試験を都度実施する。成績が悪い場合は、レポートを課する場合がある。不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	総論	定義と概念、疫学、ウツタイン
	2	心肺停止に至る病態と原因①	心肺停止時の病態、心肺蘇生の原理、心拍再開後の病態①
	3	心肺停止に至る病態と原因②	心肺停止時の病態、心肺蘇生の原理、心拍再開後の病態②
	4	心肺蘇生①	心肺停止の判断、心肺停止時の心電図変化①
	5	心肺蘇生②	心肺停止時の心電図変化②、AED、蘇生に関わる因子
	6	成人の CPR①	ガイドライン 2020
	7	成人の CPR②	成人・小児・新生児の BLS
	8	特定行為①	静脈路確保と輸液
	9	特定行為②	器具気道確保（上気道デバイス）
	10	特定行為③	器具気道確保（気管挿管）
	11	特定行為④	薬剤投与（アドレナリン）
	12	特定行為⑤	低血糖の判断とブドウ糖投与
	13	メディカルコントロール	具体的指示と包括的指示
	14	病院前救護体制	1 次・2 次・3 次病院の違いについて。年間搬送件数と重症度の割合
	15	まとめ	総合問題演習、解説

授業科目	心肺停止ⅡB	担当教員 実務経験	川島清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	呼吸器・循環器系疾患 A	担当教員	陰山　研		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・救急救命士に必要な呼吸器・循環器系疾患を理解する。				
到達目標	・授業で習った内容を活用し、病態鑑別、救急処置が行える。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
レポート	0	
小テスト	20	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	スライドを用いての授業。配布資料はないため、各自ノートをとり授業をまとめるようにすること。不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	循環器総論	心臓の生理と基礎
2	循環器疾患各論	心不全、高血圧
3	循環器疾患各論	虚血性心疾患　他
4	循環器疾患各論	不整脈　他
5	呼吸器疾患	総論
6	呼吸器疾患各論	気管支喘息、COPD、　他
7	呼吸器疾患各論	肺炎、肺がん、肺結核
8	症例	循環器、呼吸器疾患症例
9	症例	循環器、呼吸器疾患症例
10	まとめ	総合問題演習

授業科目	呼吸器・循環器系疾患 A	担当教員 実務経験	陰山研 有：■　　無：□	医師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	産婦人科疾患 B	担当教員	佐藤　真紀子		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・正常分娩と異常分娩について理解する。　・婦人科特有の病態について理解する。				
到達目標	・症状、所見から病態を鑑別し、適切な救急処置が行える。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・配付資料　等				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	レポートを課す場合がある。不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	産婦人科基礎	産婦人科系解剖生理、性機能、ホルモン、妊娠の成立と経過
	2	産婦人科基礎	母体と胎児の変化
	3	産婦人科基礎	産科に関する統計と生じている問題
	4	妊娠中の異常	子宮外妊娠、早産、流産、胞状奇胎、妊娠高血圧、他
	5	分娩	正常分娩の経過、正常分娩第Ⅰ期～第Ⅲ期
	6	分娩	呼吸法、異常分娩（破水、過強陣痛、子宮破裂）
	7	分娩のケア等	介助方法①（実習）
	8	分娩のケア等	介助方法②（実習）
	9	異常産辱	子宮内反、異常出血、shock、DIC、産褥期の異状
	10	まとめ	実践問題演習、解説

授業科目	産婦人科疾患 B	担当教員 実務経験	阿部鯛一 有：■　　無：□	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生命倫理 A	担当教員	麻生　尚志		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	・近年、先端医療において、従来の生命観と価値観が対立するような事例が生じ、それらを反映して医療をめぐる倫理観にも新しい変化が生じてきた。対象の意思を尊重し、人権と自由の保護を基盤とした生命と倫理について理解する。				
到達目標	・「命」について深く学び、相手の気持ちに配慮した傷病者対応ができる。				
テキスト・参考図書等	・配付資料　等				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	定期試験 50% 平常点（レポート提出他）30%
	レポート	0	
	小テスト	30	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	さまざま生命倫理の問題の中でも、今後、医療現場においてより深刻化することが予想される幾つかの問題に絞って授業を行う。実際に、「知識」をもつのではなく、「問題意識」をもつことが目標とされる。「知識」だけでは、実際に問題に直面したときに対処できない。受講者には自ら主体的に問題を問おうとする姿勢が求められる。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	生命倫理と医の倫理	生命倫理とは何か　人間の尊厳
	2	インフォームドコンセント	人間の尊厳　インフォームドコンセント
	3	傷病者の権利を護る立場から①	患者の自己決定権　善行の原則
	4	傷病者の権利を護る立場から②	功利主義　愚行権　尊厳死
	5	傷病者の権利を護る立場から③	安楽死にまつわる「滑り坂」論法
	6	傷病者の権利を護る立場から④	生活の質と生命の質、優生思想
	7	救急救命士の職業倫理	パーソン論　命の選別
	8	まとめ	生命の神聖さと生命の質　生命倫理まとめ

授業科目	生命倫理 A	担当教員 実務経験	麻生尚志 有：□　　無：■	
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	総合シミュレーションⅠA	担当教員	阿部　鯛一		
対象年次・学期	2 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	68 回	時間数	135 時間
授業目的	・救急活動における多種多様な手技及び現場での行動要領の理解と習熟を目標とする。				
到達目標	・救急救命士としての様々な現場活動能力及び手技を習得し実践できる。				
テキスト・参考図書等					

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	実技試験 80% 効果測定 20%
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	20	

履修上の留意事項	多種多様な救急現場に対応するために、バリエーション豊富な実習を実施する。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	防災訓練等参加①	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見学、救急医学会学会聴講
	2	防災訓練等参加②	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見学、救急医学会学会聴講
	3	防災訓練等参加③	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見学、救急医学会学会聴講
	4	防災訓練等参加④	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見学、救急医学会学会聴講
	5	防災訓練等参加⑤	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見学、救急医学会学会聴講
	6	防災訓練等参加⑥	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見学、救急医学会学会聴講
	7	標本館見学①	標本館見学
	8	標本館見学②	標本館見学
	9	外傷初療①	JPTEC
	10	外傷初療②	JPTEC
	11	外傷初療③	JPTEC
	12	外傷初療④	JPTEC
	13	防災訓練等参加⑦	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見学、救急医学会学会聴講
	14	防災訓練等参加⑧	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見学、救急医学会学会聴講
	15	防災訓練等参加⑨	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見学、救急医学会学会聴講
	16	防災訓練等参加⑩	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見学、救急医学会学会聴講
	17	防災訓練等参加⑪	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見学、救急医学会学会聴講
	18	防災訓練等参加⑫	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見学、救急医学会学会聴講
	19	救急医療①	救急医療とは
	20	救急医療②	救急医療の実際

	21	DNAR①	DNAR とは
	22	DNAR②	DNAR とは
	23	CPA プロトコール①	器具気道確保（LT・LM）
	24	CPA プロトコール②	器具気道確保（LT・LM）
	25	CPA プロトコール③	器具気道確保（LT・LM）
	26	CPA プロトコール④	器具気道確保（LT・LM）
	27	CPA プロトコール⑤	器具気道確保（気管挿管）
	28	CPA プロトコール⑥	器具気道確保（気管挿管）
	29	CPA プロトコール⑦	器具気道確保（気管挿管）
	30	CPA プロトコール⑧	器具気道確保（気管挿管）
	31	CPA プロトコール⑨	静脈路確保/アドレナリン
	32	CPA プロトコール⑩	静脈路確保/アドレナリン
	33	CPA プロトコール⑪	静脈路確保/アドレナリン
	34	CPA プロトコール⑫	静脈路確保/アドレナリン
	35	低血糖①	ブドウ糖投与
	36	低血糖②	ブドウ糖投与
	37	低血糖③	ブドウ糖投与
	38	低血糖④	ブドウ糖投与
	39	効果測定①	各プロトコールの効果測定
	40	効果測定②	各プロトコールの効果測定
	41	効果測定③	各プロトコールの効果測定
	42	効果測定④	各プロトコールの効果測定
	43	効果測定⑤	各プロトコールの効果測定
	44	効果測定⑥	各プロトコールの効果測定
	45	CBL①	脳神経
	46	CBL①	脳神経
	47	CBL②	循環器
	48	CBL②	循環器
	49	CBL③	呼吸器
	50	CBL③	呼吸器
	51	CBL④	消化器
	52	CBL④	消化器
	53	CBL⑤	内分泌
	54	CBL⑤	内分泌
	55	CBL⑥	代謝
	56	CBL⑥	代謝
	57	CBL⑦	泌尿器
	58	CBL⑦	泌尿器
	59	CBL⑧	筋・骨格系
	60	CBL⑧	筋・骨格系
	61	CBL⑨	血液/免疫系
	62	CBL⑨	血液/免疫系

	63	CBL⑩	環境
	64	CBL⑩	環境
	65	雪山救助訓練①	雪崩救助を想定した実施訓練
	66	雪山救助訓練②	雪崩救助を想定した実施訓練
	67	雪山救助訓練③	雪崩救助を想定した実施訓練
	68	雪山救助訓練④	雪崩救助を想定した実施訓練

授業科目	総合シミュレーションⅠA	担当教員 実務経験	川島清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	救急病院実習 B	担当教員	川島　清志		
対象年次・学期	2 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	90 回	時間数	180 時間
授業目的	・学内で習得した知識を病院全救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけるため、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な態度を養い、医師とともに救急領域を担う医療従事者としての自覚と責任感を育む。				
到達目標	学外臨地実習　実習要項参照				
テキスト・参考図書等					

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	・病院実習レポート ・病院実習評価表 ・病院実習発表会評価
	レポート	50	
	小テスト	0	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	札幌市内の病院 1 ヶ所と地方病院 1 ヶ所、基本的には合計 2 ヶ所の病院実習を予定。実習期間は 1 ヶ所あたり約 12 日間。詳細は実習開始前のオリエンテーションにて説明をする。実習前オリエンテーションの参加は必須。オリエンテーションを修了しないと病院実習への参加は認めない。実習期間中の留意点はオリエンテーションで説明をする。又、実習期間中の態度によっては実習を中止することもある。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	実習前オリエンテーション（8 コマ）	学外臨地実習前の諸注意や目標設定、事前実習等
	2	学外臨地実習	各病院で学外臨地実習（24 日間）
	3	症例発表会（8 コマ）	各病院で経験した事案をもとに事例検討会実施

授業科目	救急病院実習 B	担当教員 実務経験	阿部鯛一 有：■　　無：□	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	ショック・循環不全 A	担当教員	川島　清志		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・ショックの病態について理解し、対処する基盤を養う。（ショック時の輸液に対応する）				
到達目標	・ショックの病態、判断、処置について説明が十分にできる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
レポート	0	
小テスト	20	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	毎回の授業の終わりに確認試験を実施。定期試験の点数に加算する。しっかり復習をすること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	循環障害について①	虚血と梗塞、うっ血
2	循環障害について②	浮腫、出血、血液凝固
3	総論	ショックの定義、病態生理
4	ショックを理解する上での基礎知識	循環動態、血液の流れ
5	循環血液量減少性ショック	発症機序、循環動態の変化
6	心原性ショック	発症機序、循環動態の変化
7	心外閉塞・拘束性ショック	発症機序、循環動態の変化
8	血液分布異常性ショック	発症機序、循環動態の変化
9	ショックに陥る病態	ショックの判断と種類、病態の理解
10	ショック傷病者に対する特定行為	クラッシュ症候群、輸液

授業科目	ショック・循環不全 A	担当教員 実務経験	苑田　裕樹 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う。
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	外傷各論・小児・高齢者 A	担当教員	藤田　智		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・人体部位別の外傷損傷がわかり、対処できる知識を備える。　・小児、高齢者に特有の外傷疾患を理解できる。				
到達目標	・各損傷部位に対する処置、重症度・緊急度の判断、小児、高齢者に特有の外傷についての説明ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・JPTEC ガイドブック				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	レポートを課す場合がある。不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	外傷総論	疫学と外傷システム、受傷機転
	2	外傷総論	外傷の病態生理、JPTEC
	3	外傷各論	頭部外傷、頸部外傷
	4	外傷各論	脊椎・脊髄外傷
	5	外傷各論	胸部外傷、腹部外傷
	6	外傷各論	骨盤、四肢外傷、皮膚・軟部組織損傷
	7	外傷各論	小児高齢者外傷、妊婦外傷、スポーツ外傷
	8	外傷各論	熱傷
	9	その他の外傷	電撃症・化学損傷
	10	その他の外傷	縊頸・刺咬傷

授業科目	外傷各論・小児・高齢者 A	担当教員 実務経験	川島清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	筋骨格・皮膚・感覚器疾患 A	担当教員	岡本　博之		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・救急救命士に必要な感覚器・口腔・整形外科系疾患を理解する。				
到達目標	・感覚器・口腔・整形外科系疾患に関する病態生理とそれに対する救命処置について説明ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	レポートを課す場合がある。不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	筋・骨格系疾患	疾患の理解に必要な基礎知識
	2	筋・骨格系疾患の理解①	脊椎疾患
	3	筋・骨格系疾患の理解②	関節疾患、筋疾患
	4	皮膚疾患	疾患の理解に必要な基礎知識
	5	皮膚疾患の理解	皮膚・軟部組織感染症、アレルギー性疾患
	6	歯・口腔系疾患	疾患の理解に必要な基礎知識、主な疾患と観察・判断、主な疾患
	7	歯・口腔系疾患の理解	骨髄炎、扁桃周囲炎、顎関節脱臼
	8	眼の疾患	視覚に関する解剖生理、主な疾患
	9	まとめ　筋・骨格系疾患	総合問題演習、解説
	10	まとめ　皮膚・感覚口腔系疾患	総合問題演習、解説

授業科目	筋骨格・皮膚・感覚器疾患 A	担当教員 実務経験	川島清志 有：□　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	筋骨格・皮膚・感覚器疾患 B	担当教員	岡本　博之		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・救急救命士に必要な感覚器・口腔・整形外科系疾患を理解する。				
到達目標	・感覚器・口腔・整形外科系疾患に関する病態生理とそれに対する救命処置について説明ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	レポートを課す場合がある。不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	筋・骨格系疾患	疾患の理解に必要な基礎知識
	2	筋・骨格系疾患の理解①	脊椎疾患
	3	筋・骨格系疾患の理解②	関節疾患、筋疾患
	4	皮膚疾患	疾患の理解に必要な基礎知識
	5	皮膚疾患の理解	皮膚・軟部組織感染症、アレルギー性疾患
	6	歯・口腔系疾患	疾患の理解に必要な基礎知識、主な疾患と観察・判断、主な疾患
	7	歯・口腔系疾患の理解	骨髄炎、扁桃周囲炎、顎関節脱臼
	8	眼の疾患	視覚に関する解剖生理、主な疾患
	9	まとめ　筋・骨格系疾患	総合問題演習、解説
	10	まとめ　皮膚・感覚口腔系疾患	総合問題演習、解説

授業科目	筋骨格・皮膚・感覚器疾患 B	担当教員 実務経験	川島清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	小児・新生児・高齢者疾患 B	担当教員	北川　正博		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・成人期以外の発育について学び、救急活動での現場診断に役立てる。				
到達目標	・成人期以外の発達段階における特徴を理解する。　・新生児、小児に特有の疾患を理解する。　・高齢者に特有の疾患を理解する。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	レポートを課する場合がある。不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	小児・新生児の解剖生理	疾患の理解に必要な基礎知識
	2	小児の救急疾患①	小児のおもな疾患と観察・判断①
	3	小児の救急疾患②	小児のおもな疾患と観察・判断②
	4	新生児の救急疾患	新生児のおもな疾患と観察・判断
	5	小児・新生児の心肺蘇生	新生児・小児の心肺蘇生理論
	6	高齢者の救急①	疾患の理解に必要な基礎知識
	7	高齢者の救急②	おもな疾患と観察・判断①
	8	高齢者の救急③	おもな疾患と観察・判断②
	9	高齢者の救急④	地域医療について
	10	まとめ	総合問題演習、解説

授業科目	小児・新生児・高齢者疾患 B	担当教員 実務経験	川島清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	総合シミュレーションⅠB	担当教員	阿部　鯛一		
対象年次・学期	2 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	68 回	時間数	135 時間
授業目的	・救急活動における多種多様な手技及び現場での行動要領の理解と習熟を目標とする。				
到達目標	・救急救命士としての様々な現場活動能力及び手技を習得し実践できる。				
テキスト・参考図書等					

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	実技試験 80% 効果測定 20%
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	20	

履修上の留意事項	多種多様な救急現場に対応するために、バリエーション豊富な実習を実施する。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	防災訓練等参加①	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、学会聴講
	2	防災訓練等参加②	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、学会聴講
	3	防災訓練等参加③	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、学会聴講
	4	防災訓練等参加④	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、学会聴講
	5	防災訓練等参加⑤	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、学会聴講
	6	防災訓練等参加⑥	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、学会聴講
	7	標本館見学①	標本館見学
	8	標本館見学②	標本館見学
	9	外傷初療①	JPTEC
	10	外傷初療②	JPTEC
	11	外傷初療③	JPTEC
	12	外傷初療④	JPTEC
	13	防災訓練等参加⑦	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見学、救急医学会学会聴講
	14	防災訓練等参加⑧	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見学、救急医学会学会聴講
	15	防災訓練等参加⑨	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見学、救急医学会学会聴講
	16	防災訓練等参加⑩	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見学、救急医学会学会聴講
	17	防災訓練等参加⑪	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見学、救急医学会学会聴講
	18	防災訓練等参加⑫	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、自衛隊施設見学、救急医学会学会聴講
	19	救急医療①	救急医療とは
	20	救急医療②	救急医療の実際
	21	DNAR①	DNAR とは

	22	DNAR②	DNAR とは
	23	CPA プロトコール①	器具気道確保（LT・LM）
	24	CPA プロトコール②	器具気道確保（LT・LM）
	25	CPA プロトコール③	器具気道確保（LT・LM）
	26	CPA プロトコール④	器具気道確保（LT・LM）
	27	CPA プロトコール⑤	器具気道確保（気管挿管）
	28	CPA プロトコール⑥	器具気道確保（気管挿管）
	29	CPA プロトコール⑦	器具気道確保（気管挿管）
	30	CPA プロトコール⑧	器具気道確保（気管挿管）
	31	CPA プロトコール⑨	静脈路確保/アドレナリン
	32	CPA プロトコール⑩	静脈路確保/アドレナリン
	33	CPA プロトコール⑪	静脈路確保/アドレナリン
	34	CPA プロトコール⑫	静脈路確保/アドレナリン
	35	低血糖①	ブドウ糖投与
	36	低血糖②	ブドウ糖投与
	37	低血糖③	ブドウ糖投与
	38	低血糖④	ブドウ糖投与
	39	効果測定①	各プロトコールの効果測定
	40	効果測定②	各プロトコールの効果測定
	41	効果測定③	各プロトコールの効果測定
	42	効果測定④	各プロトコールの効果測定
	43	効果測定⑤	各プロトコールの効果測定
	44	効果測定⑥	各プロトコールの効果測定
	45	CBL①	脳神経
	46	CBL①	脳神経
	47	CBL②	循環器
	48	CBL②	循環器
	49	CBL③	呼吸器
	50	CBL③	呼吸器
	51	CBL④	消化器
	52	CBL④	消化器
	53	CBL⑤	内分泌
	54	CBL⑤	内分泌
	55	CBL⑥	代謝
	56	CBL⑥	代謝
	57	CBL⑦	泌尿器
	58	CBL⑦	泌尿器
	59	CBL⑧	筋・骨格系
	60	CBL⑧	筋・骨格系
	61	CBL⑨	血液/免疫系
	62	CBL⑨	血液/免疫系
	63	CBL⑩	環境

	64	CBL⑩	環境
	65	雪山救助訓練①	雪崩救助を想定した実施訓練
	66	雪山救助訓練②	雪崩救助を想定した実施訓練
	67	雪山救助訓練③	雪崩救助を想定した実施訓練
	68	雪山救助訓練④	雪崩救助を想定した実施訓練

授業科目	総合シミュレーションⅠB	担当教員 実務経験	川島清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	感染症と予防 B	担当教員	阿部　鯛一		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・感染における知識を得る。 ・感染予防について理解し、行動できる基盤を作る。				
到達目標	・感染に対する予防策、安全策について説明ができる。 ・感染症に対する処置を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・消防職員のための消毒・滅菌・感染症対策マニュアル				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	感染の種類、経路、予防策について学ぶ。救急隊活動の中でどのような注意、対策が必要かをしっかり押さえること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	感染予防策と感染防御	スタンダードプリコーションとは。感染経路の種類と代表的な感染症。
	2	救急活動での感染防御	手指衛生。手洗いの方法。N95、手袋の着脱について。
	3	洗浄と消毒	清潔と不潔について。消毒液の種類。滅菌、消毒、洗浄について。
	4	感染事故と事故後の対応	針刺事故、結核傷病者への対応、感染症法による主な感染症の分類。
	5	感染症総論	感染とは何か。ワクチン。救急隊としての感染対策について。
	6	特異感染症	敗血症、結核、インフルエンザ。
	7	食中毒と輸入感染症	ノロウィルス、腸管出血性大腸菌、マラリア、細菌性赤痢、デング熱　等。
	8	発疹性感染症、皮膚・軟部組織感染症、その他の感染症	麻疹、風疹、水痘、SSSS、蜂窩織炎、丹毒、破傷風　等。
	9	性感染症	性交渉による感染症のリスクについて。
	10	COVID-19	新型コロナウィルス関連。

授業科目	感染症と予防 B	担当教員 実務経験	川島清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	消化器・泌尿器系疾患 B	担当教員	田口　大		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・救急救命士に必要な消化器系疾患を理解する。				
到達目標	・症状、所見から消化器疾患の病態鑑別ができ、説明ができる。				
テキスト・ 参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・配付資料　等				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の 留意事項	レポートを課す場合がある。不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	疾患の理解①	腎臓の疾患、尿路の疾患
	2	疾患の理解②	男性生殖器の疾患、女性生殖器の疾患
	3	観察と判断①	泌尿器系疾患の主要症候
	4	観察と判断②	消化器系疾患の主要症候
	5	泌尿・生殖系解剖	疾患の理解に必要な基礎知識、観察と判断、緊急度判定
	6	消化器系解剖	疾患の理解に必要な基礎知識、観察と判断、緊急度判定
	7	主な疾患①	食道疾患
	8	主な疾患②	胃・十二指腸疾患
	9	主な疾患③	腸疾患
	10	主な疾患④	肝臓・胆道・膵臓の疾患

授業科目	消化器・泌尿器系疾患 B	担当教員 実務経験	阿部鯛一 有：■　　無：□	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	救急車同乗実習 A	担当教員	阿部　鯛一		
対象年次・学期	2 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	23 回	時間数	45 時間
授業目的	・実際に傷病者と接し、救急現場の状況を肌で感じ、救急救命士としての使命感や社会的意義を強く認識する。				
到達目標	・消防業務全般、救急現場活動の実体験を通じ、救急救命士としての専門性の能力を養う。 ※その他詳細は、別途配付の実習要領参照				
テキスト・参考図書等					

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	臨地実習指導者による実習評価
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	消防機関での救急車同乗実習を行う。実習前オリエンテーションの参加は必須。実習中の服装、態度がおもわしくない場合は実習を中止することがある。 ※その他詳細は、別途配付の実習要領参照

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	実習前オリエンテーション（6 コマ）	消防実習に行く上での心構え、規律、目標について学ぶ
	2	救急車同乗実習	各消防での臨地実習（2 当務または 5 日勤）
	3	症例発表（4 コマ）	実習先で経験した事案を学生間で共有

授業科目	救急車同乗実習 A	担当教員 実務経験	川島清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	感染症と予防 A	担当教員	阿部　鯛一		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・感染における知識を得る。 ・感染予防について理解し、行動できる基盤を作る。				
到達目標	・感染に対する予防策、安全策について説明ができる。 ・感染症に対する処置を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・消防職員のための消毒・滅菌・感染症対策マニュアル				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	感染の種類、経路、予防策について学ぶ。救急隊活動の中でどのような注意、対策が必要かをしっかり押さえること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	感染予防策と感染防御	スタンダードプリコーションとは。感染経路の種類と代表的な感染症。
	2	救急活動での感染防御	手指衛生。手洗いの方法。N95、手袋の着脱について。
	3	洗浄と消毒	清潔と不潔について。消毒液の種類。滅菌、消毒、洗浄について。
	4	感染事故と事故後の対応	針刺事故、結核傷病者への対応、感染症法による主な感染症の分類。
	5	感染症総論	感染とは何か。ワクチン。救急隊としての感染対策について。
	6	特異感染症	敗血症、結核、インフルエンザ。
	7	食中毒と輸入感染症	ノロウィルス、腸管出血性大腸菌、マラリア、細菌性赤痢、デング熱　等。
	8	発疹性感染症、皮膚・軟部組織感染症、その他の感染症	麻疹、風疹、水痘、SSSS、蜂窩織炎、丹毒、破傷風　等。
	9	性感染症	性交渉による感染症のリスクについて。
	10	COVID-19	新型コロナウィルス関連。

授業科目	感染症と予防 A	担当教員 実務経験	川島清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	血液・内分泌・代謝性疾患 A	担当教員	雀地　洋平		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・救急救命士に必要な内分泌・代謝・泌尿器・血液・免疫系疾患を理解する。				
到達目標	・内分泌、代謝、泌尿器疾患のある傷病者への対応ができる。				
テキスト・ 参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・配付資料　等				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の 留意事項	レポートを課す場合がある。不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	内分泌・栄養系	疾患の理解に必要な基礎知識、観察と判断、緊急度判定
	2	疾患の理解①	甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副腎機能異常
	3	疾患の理解②	肥満、るいそう、ビタミン欠乏症
	4	代謝系疾患	疾患の理解に必要な基礎知識、観察と判断、緊急度判定
	5	疾患の理解③	糖尿病、低血糖
	6	疾患の理解④	その他の代謝異常
	7	血液・免疫系疾患	疾患の理解に必要な基礎知識、観察と判断、緊急度判定
	8	疾患の理解⑤	血液系疾患
	9	疾患の理解⑥	免疫系疾患、アナフィラキシー
	10	まとめ	総合問題演習　解説

授業科目	血液・内分泌・代謝性疾患 A	担当教員 実務経験	川島清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	救急病態生理学ⅡB	担当教員	田中　則之		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	・症状による病態・重症度判定を知り、救急処置に役立てる。				
到達目標	・症状、所見から必要な救急処置、病態鑑別ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・配付資料　等				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	定期試験 70% 確認試験 30%
	レポート	0	
	小テスト	30	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	確認試験を途中に設けている。試験の成績が悪い場合は、レポートを課する場合がある。不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	意識障害	意識障害の原因と代表的な疾患について
	2	頭痛	頭痛の発症機序と分類　緊急度重症度の判断
	3	痙攣	痙攣とてんかんの違い　痙攣の種類について
	4	運動麻痺	運動麻痺とは　種類と機序について　運動麻痺の原因疾患
	5	めまい	めまいとは　発生機序　分類と随伴症状
	6	呼吸困難	呼吸困難の定義　呼吸困難の種類と原因疾患
	7	喀血	喀血とは　喀血を伴う疾患の種類
	8	一過性意識消失と失神	一過性脳虚血発作と失神の違い　原因と種類について
	9	胸痛	胸痛の原因疾患と部位について　重症度緊急度
	10	動悸	動悸とは　発生機序　原因疾患について
	11	腹痛	腹痛の発生機序　腹痛の種類について　部位別の疾患
	12	吐血・下血	吐血・下血とは　原因疾患について　喀血との鑑別
	13	腰痛・背部痛	腰痛・背部痛の定義　緊急度重症度　部位別の疾患について
	14	体温上昇	体温上昇の機序と疾患
	15	まとめ	実践問題演習と解説

授業科目	救急病態生理学ⅡB	担当教員 実務経験	阿部鯛一 有：■　　無：□	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	小児・新生児・高齢者疾患 A	担当教員	北川　正博		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・成人期以外の発育について学び、救急活動での現場診断に役立てる。				
到達目標	・成人期以外の発達段階における特徴を理解する。　・新生児、小児に特有の疾患を理解する。　・高齢者に特有の疾患を理解する。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	レポートを課する場合がある。不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	小児・新生児の解剖生理	疾患の理解に必要な基礎知識
	2	小児の救急疾患①	小児のおもな疾患と観察・判断①
	3	小児の救急疾患②	小児のおもな疾患と観察・判断②
	4	新生児の救急疾患	新生児のおもな疾患と観察・判断
	5	小児・新生児の心肺蘇生	新生児・小児の心肺蘇生理論
	6	高齢者の救急①	疾患の理解に必要な基礎知識
	7	高齢者の救急②	おもな疾患と観察・判断①
	8	高齢者の救急③	おもな疾患と観察・判断②
	9	高齢者の救急④	地域医療について
	10	まとめ	総合問題演習、解説

授業科目	小児・新生児・高齢者疾患 A	担当教員 実務経験	川島清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	救急病態生理学ⅡA	担当教員	田中　則之		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	・症状による病態・重症度判定を知り、救急処置に役立てる。				
到達目標	・症状、所見から必要な救急処置、病態鑑別ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・配付資料　等				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	定期試験 70% 確認試験 30%
	レポート	0	
	小テスト	30	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	確認試験を途中に設けている。試験の成績が悪い場合は、レポートを課する場合がある。不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	意識障害	意識障害の原因と代表的な疾患について
	2	頭痛	頭痛の発症機序と分類　緊急度重症度の判断
	3	痙攣	痙攣とてんかんの違い　痙攣の種類について
	4	運動麻痺	運動麻痺とは　種類と機序について　運動麻痺の原因疾患
	5	めまい	めまいとは　発生機序　分類と随伴症状
	6	呼吸困難	呼吸困難の定義　呼吸困難の種類と原因疾患
	7	喀血	喀血とは　喀血を伴う疾患の種類
	8	一過性意識消失と失神	一過性脳虚血発作と失神の違い　原因と種類について
	9	胸痛	胸痛の原因疾患と部位について　重症度緊急度
	10	動悸	動悸とは　発生機序　原因疾患について
	11	腹痛	腹痛の発生機序　腹痛の種類について　部位別の疾患
	12	吐血・下血	吐血・下血とは　原因疾患について　喀血との鑑別
	13	腰痛・背部痛	腰痛・背部痛の定義　緊急度重症度　部位別の疾患について
	14	体温上昇	体温上昇の機序と疾患
	15	まとめ	実践問題演習と解説

授業科目	救急病態生理学ⅡA	担当教員 実務経験	阿部鯛一 有：■　　無：□	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	応急処置ⅡB	担当教員	阿部　鯛一		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	45 回	時間数	90 時間
授業目的	・傷病者の的確な観察結果に基づく適切な救急救命処置を実施する。いずれも、継続観察の重要性を理解する。				
到達目標	・特定行為を理解し処置ができる。　・MC 体制のプロトコールを理解し実践できる。 ・救急技術を完全に習得し隊員間の連携活動ができる能力を養う。　・救急活動時の判断能力を養う。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・別途配付資料				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	実技試験 80% 効果測定 20%
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	20	

履修上の留意事項	別紙授業計画に基づき小グループ方式で実習を行う。 各項目の最終で効果測定を実施し、スキルの成熟度を測る。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	特定行為	器具気道確保の適応と手順（1 年次の復習）
	2	特定行為	器具気道確保の適応と手順（1 年次の復習）
	3	特定行為	器具気道確保（効果測定）
	4	特定行為	器具気道確保（効果測定）
	5	特定行為	静脈路確保の適応と手順、ルート作成
	6	特定行為	ルート作成（効果測定）
	7	特定行為	ルート作成（効果測定）
	8	特定行為	静脈路穿刺の危険リスクと針刺事故について
	9	特定行為	静脈路穿刺
	10	特定行為	静脈路穿刺
	11	特定行為	ルート接続と滴下調整
	12	特定行為	ルート接続と滴下調整
	13	特定行為	静脈路穿刺、ルート接続、滴下調整（効果測定）
	14	特定行為	静脈路穿刺、ルート接続、滴下調整（効果測定）
	15	特定行為	アドレナリンの適応と危険リスク
	16	特定行為	三方括栓操作とアドレナリン投与方法
	17	特定行為	三方括栓操作とアドレナリン投与（効果測定）
	18	特定行為	気管挿管で使う資機材について、気管挿管の適応
	19	特定行為	気管挿管の準備、手順について
	20	特定行為	気管挿管準備
	21	特定行為	気管挿管準備
	22	特定行為	気管挿管準備（効果測定）
	23	特定行為	気管挿管の手順

	24	特定行為	気管挿管の手順
	25	特定行為	気管挿管の手順
	26	特定行為	気管挿管の手順（効果測定）
	27	特定行為	気管挿管の手順（効果測定）
	28	特定行為	血糖測定/ブドウ糖投与の適応とリスクについて
	29	特定行為	意識障害の鑑別方法と測定準備
	30	特定行為	意識障害の鑑別方法と測定準備
	31	特定行為	血糖測定の手順
	32	特定行為	血糖測定の手順
	33	特定行為	意識障害の鑑別から血糖測定（効果測定）
	34	特定行為	意識障害の鑑別から血糖測定（効果測定）
	35	特定行為	ショック前輸液の適応とリスク
	36	特定行為	ショックの判断と輸液準備
	37	特定行為	ショックの判断と輸液準備
	38	特定行為	ショックの判断と輸液（効果測定）
	39	特定行為	ショックの判断と輸液（効果測定）
	40	特定行為	実践想定隊活動
	41	特定行為	実践想定隊活動
	42	特定行為	実践想定隊活動
	43	特定行為	実践想定隊活動
	44	特定行為	実践想定隊活動
	45	特定行為	実践想定隊活動

授業科目	応急処置ⅡB	担当教員 実務経験	川島清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	神経系疾患 B	担当教員	阿部　鯛一		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・救急救命士に必要な脳・神経系疾患を理解する。				
到達目標	・神経系疾患傷病者への対応ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・配付資料　等				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	レポートを課す場合がある。不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	疾患理解に必要な基礎知識	神経系の構造と機能
	2	疾患理解に必要な基礎知識	神経系疾患の主要症候
	3	疾患理解に必要な基礎知識	緊急度・重症度の判断　JCS/GCS の理解
	4	おもな疾患①	脳血管障害（くも膜下出血、脳出血、脳梗塞）
	5	おもな疾患②	脳血管障害（TIA、脳動静脈奇形、もやもや病）
	6	おもな疾患③	髄膜炎、脳炎、脳腫瘍、脳膿瘍
	7	おもな疾患④	中枢疾患系の感染症
	8	おもな疾患⑤	末梢神経疾患
	9	おもな疾患⑥	その他の中枢神経疾患
	10	まとめ	総合問題演習

授業科目	神経系疾患 B	担当教員 実務経験	川島清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	呼吸器・循環器系疾患 B	担当教員	陰山　研		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・救急救命士に必要な呼吸器・循環器系疾患を理解する。				
到達目標	・授業で習った内容を活用し、病態鑑別、救急処置が行える。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
レポート	0	
小テスト	20	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	スライドを用いての授業。配布資料はないため、各自ノートをとり授業をまとめるようにすること。不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	循環器総論	心臓の生理と基礎
2	循環器疾患各論	心不全、高血圧
3	循環器疾患各論	虚血性心疾患　他
4	循環器疾患各論	不整脈　他
5	呼吸器疾患	総論
6	呼吸器疾患各論	気管支喘息、COPD、　他
7	呼吸器疾患各論	肺炎、肺がん、肺結核
8	症例	循環器、呼吸器疾患症例
9	症例	循環器、呼吸器疾患症例
10	まとめ	総合問題演習

授業科目	呼吸器・循環器系疾患 B	担当教員 実務経験	陰山研 有：■　　無：□	医師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	血液・内分泌・代謝性疾患 B	担当教員	雀地　洋平		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・救急救命士に必要な内分泌・代謝・泌尿器・血液・免疫系疾患を理解する。				
到達目標	・内分泌、代謝、泌尿器疾患のある傷病者への対応ができる。				
テキスト・ 参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・配付資料　等				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の 留意事項	レポートを課す場合がある。不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	内分泌・栄養系	疾患の理解に必要な基礎知識、観察と判断、緊急度判定
	2	疾患の理解①	甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副腎機能異常
	3	疾患の理解②	肥満、るいそう、ビタミン欠乏症
	4	代謝系疾患	疾患の理解に必要な基礎知識、観察と判断、緊急度判定
	5	疾患の理解③	糖尿病、低血糖
	6	疾患の理解④	その他の代謝異常
	7	血液・免疫系疾患	疾患の理解に必要な基礎知識、観察と判断、緊急度判定
	8	疾患の理解⑤	血液系疾患
	9	疾患の理解⑥	免疫系疾患、アナフィラキシー
	10	まとめ	総合問題演習　解説

授業科目	血液・内分泌・代謝性疾患 B	担当教員 実務経験	川島清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	教養ⅡB	担当教員	工藤　哲也		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	・教養Ⅰで学んだことをベースに、公務員試験の一般知能分野を効果的に解答するための問題演習を行う。基礎分野の復習から実践レベルの問題へと解答テクニックの幅を広げる。				
到達目標	・過去問ベースの問題を各自独力で解答を導き出すことができる。				
テキスト・参考図書等	・絶対合格シリーズ　各分野				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	定期試験70% 小テスト10% 提出物20%
	レポート	0	
	小テスト	10	
	提出物	20	
	その他	0	

履修上の留意事項	様々な解答法を講義形式で展開していく。類題の解法は数多くは実施しない。各人が反復して問題を解答することによってはじめて自分の力となる。家庭での復習が実力定着のカギとなるので、適宜宿題を与えたり、確認テストを実施する。（単元の評価にも関与する）知能は文字通り知的能力が試される科目である。決して難問ではない。何事にも柔軟な発想であきらめずにチャレンジすること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	数的推理　（阿部）	教養Ⅰの復習
	2	判断推理　（工藤）	うそつき①
	3	数的推理　（阿部）	通過算①
	4	判断推理　（工藤）	うそつき②
	5	数的推理　（阿部）	通過算②
	6	判断推理　（工藤）	順序関係①
	7	数的推理　（阿部）	流水算①
	8	判断推理　（工藤）	順序関係②
	9	数的推理　（阿部）	流水算②
	10	判断推理　（工藤）	順序関係③
	11	数的推理　（阿部）	時計算
	12	判断推理　（工藤）	位置・方位①
	13	数的推理　（阿部）	ニュートン算①
	14	判断推理　（工藤）	位置・方位①
	15	数的推理　（阿部）	ニュートン算②
	16	判断推理　（工藤）	位置・方位②
	17	数的推理　（阿部）	仕事算①
	18	判断推理　（工藤）	位置・方位③
	19	数的推理　（阿部）	仕事算②
	20	空間把握　（工藤）	暗号①
	21	数的推理　（阿部）	三角形と多角形①

	22	判断推理　（工藤）	暗号②
	23	数的推理　（輕部）	三角形と多角形②
	24	判断推理　（工藤）	手順
	25	数的推理　（阿部）	円①
	26	判断推理　（工藤）	暦・カレンダー
	27	数的推理　（阿部）	円②
	28	判断推理　（工藤）	数量推理
	29	数的推理　（阿部）	面積（三角形）
	30	判断推理　（工藤）	まとめ

授業科目	教養ⅡB	担当教員 実務経験	阿部幸雄 有：□　　無：■	
対象年次・学期	2 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	外傷各論・小児・高齢者 B	担当教員	藤田　智		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・人体部位別の外傷損傷がわかり、対処できる知識を備える。　・小児、高齢者に特有の外傷疾患を理解できる。				
到達目標	・各損傷部位に対する処置、重症度・緊急度の判断、小児、高齢者に特有の外傷についての説明ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・JPTEC ガイドブック				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	レポートを課す場合がある。不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	外傷総論	疫学と外傷システム、受傷機転
	2	外傷総論	外傷の病態生理、JPTEC
	3	外傷各論	頭部外傷、頸部外傷
	4	外傷各論	脊椎・脊髄外傷
	5	外傷各論	胸部外傷、腹部外傷
	6	外傷各論	骨盤、四肢外傷、皮膚・軟部組織損傷
	7	外傷各論	小児高齢者外傷、妊婦外傷、スポーツ外傷
	8	外傷各論	熱傷
	9	その他の外傷	電撃症・化学損傷
	10	その他の外傷	縊頸・刺咬傷

授業科目	外傷各論・小児・高齢者 B	担当教員 実務経験	川島清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	看護学概論 A	担当教員	川島　清志		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・救急医療を行うチームとして存在する看護（師）について理解を深める。　・看護の実践から救急救命士として参考にできる事柄について理解を深める。 ・プレホスピタルとインホスピタルの連携について理解を深める。				
到達目標	・救急医療における看護と救急救命士との連携について自分の考えをまとめ、述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・配付資料　等				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	レポート 100%
	レポート	1	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	救急活動と関連の深い項目をとりあげ、その領域を専門とする外部講師による授業を予定している。授業後にその内容に関するレポート課題を提示し、評価とする。授業順番は講師により前後することがある。授業中の不明な点や疑問点に関しては積極的に質問し解決すること。授業最後にその内容からレポート課題を提示するため、しっかり学習に取り組むこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	看護とは？	看護学概論、看護の歴史、医療倫理
	2	救急看護①	精神看護領域について
	3	救急看護②	災害看護
	4	救急看護③	ドクターヘリの活動と役割
	5	救急看護④	救急救命士と看護師の関連性
	6	救急看護⑤	緊急検査項目の解釈/動脈血ガスの解釈
	7	コミュニケーション	観察とコミュニケーション
	8	病院実習	看護師と救急救命士/トリアージ編
	9	病院実習	医療チーム内での救急救命士の役割を理解する①
	10	病院実習	医療チーム内での救急救命士の役割を理解する②

授業科目	看護学概論 A	担当教員 実務経験	佐藤　希 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	救急病院実習 A	担当教員	川島　清志		
対象年次・学期	2 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	90 回	時間数	180 時間
授業目的	・学内で習得した知識を病院全救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけるため、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な態度を養い、医師とともに救急領域を担う医療従事者としての自覚と責任感を育む。				
到達目標	学外臨地実習　実習要項参照				
テキスト・参考図書等					

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	・病院実習レポート ・病院実習評価表 ・病院実習発表会評価
	レポート	50	
	小テスト	0	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	札幌市内の病院 1 ヶ所と地方病院 1 ヶ所、基本的には合計 2 ヶ所の病院実習を予定。実習期間は 1 ヶ所あたり約 12 日間。詳細は実習開始前のオリエンテーションにて説明をする。実習前オリエンテーションの参加は必須。オリエンテーションを修了しないと病院実習への参加は認めない。実習期間中の留意点はオリエンテーションで説明をする。又、実習期間中の態度によっては実習を中止することもある。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	実習前オリエンテーション（4 コマ）	学外臨地実習前の諸注意や目標設定、事前実習等
	2	学外臨地実習	各病院で学外臨地実習（24 日間）
	3	症例発表会（4 コマ）	各病院で経験した事案をもとに事例検討会実施

授業科目	救急病院実習 A	担当教員 実務経験	阿部鯛一 有：■　　無：□	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	精神障害 A	担当教員	足立　卓也		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	・精神疾患と精神障害患者について理解する。				
到達目標	・精神障害者への対応ができる。				
テキスト・参考図書等	・配付資料　等				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	講義とビデオ教材を使用。居眠り厳禁！不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	精神科総論	精神障害・総論
	2	内因性精神病①	統合失調症①
	3	内因性精神病②	統合失調症②
	4	内因性精神病③	気分障害①鬱病
	5	内因性精神病④	気分障害②躁鬱病
	6	心因性精神障害①	神経症
	7	心因性精神障害②	人格障害
	8	その他	心因・外因性精神障害、精神科入院、救急対応、国試対策

授業科目	精神障害 A	担当教員 実務経験	足立卓也 有：■　　無：□	医療機関において医師として勤務し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	応急処置ⅡA	担当教員	阿部　鯛一		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	45 回	時間数	90 時間
授業目的	・傷病者の的確な観察結果に基づく適切な救急救命処置を実施する。いずれも、継続観察の重要性を理解する。				
到達目標	・特定行為を理解し処置ができる。　・MC 体制のプロトコールを理解し実践できる。 ・救急技術を完全に習得し隊員間の連携活動ができる能力を養う。　・救急活動時の判断能力を養う。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・別途配付資料				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	実技試験 80% 効果測定 20%
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	20	

履修上の留意事項	別紙授業計画に基づき小グループ方式で実習を行う。 各項目の最終で効果測定を実施し、スキルの成熟度を測る。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	特定行為	器具気道確保の適応と手順（1 年次の復習）
	2	特定行為	器具気道確保の適応と手順（1 年次の復習）
	3	特定行為	器具気道確保（効果測定）
	4	特定行為	器具気道確保（効果測定）
	5	特定行為	静脈路確保の適応と手順、ルート作成
	6	特定行為	ルート作成（効果測定）
	7	特定行為	ルート作成（効果測定）
	8	特定行為	静脈路穿刺の危険リスクと針刺事故について
	9	特定行為	静脈路穿刺
	10	特定行為	静脈路穿刺
	11	特定行為	ルート接続と滴下調整
	12	特定行為	ルート接続と滴下調整
	13	特定行為	静脈路穿刺、ルート接続、滴下調整（効果測定）
	14	特定行為	静脈路穿刺、ルート接続、滴下調整（効果測定）
	15	特定行為	アドレナリンの適応と危険リスク
	16	特定行為	三方括栓操作とアドレナリン投与方法
	17	特定行為	三方括栓操作とアドレナリン投与（効果測定）
	18	特定行為	気管挿管で使う資機材について、気管挿管の適応
	19	特定行為	気管挿管の準備、手順について
	20	特定行為	気管挿管準備
	21	特定行為	気管挿管準備
	22	特定行為	気管挿管準備（効果測定）
	23	特定行為	気管挿管の手順

	24	特定行為	気管挿管の手順
	25	特定行為	気管挿管の手順
	26	特定行為	気管挿管の手順（効果測定）
	27	特定行為	気管挿管の手順（効果測定）
	28	特定行為	血糖測定/ブドウ糖投与の適応とリスクについて
	29	特定行為	意識障害の鑑別方法と測定準備
	30	特定行為	意識障害の鑑別方法と測定準備
	31	特定行為	血糖測定の手順
	32	特定行為	血糖測定の手順
	33	特定行為	意識障害の鑑別から血糖測定（効果測定）
	34	特定行為	意識障害の鑑別から血糖測定（効果測定）
	35	特定行為	ショック前輸液の適応とリスク
	36	特定行為	ショックの判断と輸液準備
	37	特定行為	ショックの判断と輸液準備
	38	特定行為	ショックの判断と輸液（効果測定）
	39	特定行為	ショックの判断と輸液（効果測定）
	40	特定行為	実践想定隊活動
	41	特定行為	実践想定隊活動
	42	特定行為	実践想定隊活動
	43	特定行為	実践想定隊活動
	44	特定行為	実践想定隊活動
	45	特定行為	実践想定隊活動

授業科目	応急処置ⅡA	担当教員 実務経験	川島清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	消化器・泌尿器系疾患 A	担当教員	田口　大		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・救急救命士に必要な消化器系疾患を理解する。				
到達目標	・症状、所見から消化器疾患の病態鑑別ができ、説明ができる。				
テキスト・ 参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・配付資料　等				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の 留意事項	レポートを課す場合がある。不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	疾患の理解①	腎臓の疾患、尿路の疾患
	2	疾患の理解②	男性生殖器の疾患、女性生殖器の疾患
	3	観察と判断①	泌尿器系疾患の主要症候
	4	観察と判断②	消化器系疾患の主要症候
	5	泌尿・生殖系解剖	疾患の理解に必要な基礎知識、観察と判断、緊急度判定
	6	消化器系解剖	疾患の理解に必要な基礎知識、観察と判断、緊急度判定
	7	主な疾患①	食道疾患
	8	主な疾患②	胃・十二指腸疾患
	9	主な疾患③	腸疾患
	10	主な疾患④	肝臓・胆道・膵臓の疾患

授業科目	消化器・泌尿器系疾患 A	担当教員 実務経験	阿部鯛一 有：■　　無：□	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	教養ⅡA	担当教員	工藤　哲也		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	・教養Ⅰで学んだことをベースに、公務員試験の一般知能分野を効果的に解答するための問題演習を行う。基礎分野の復習から実践レベルの問題へと解答テクニックの幅を広げる。				
到達目標	・過去問ベースの問題を各自独力で解答を導き出すことができる。				
テキスト・参考図書等	・絶対合格シリーズ　各分野				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	定期試験70% 小テスト10% 提出物20%
	レポート	0	
	小テスト	10	
	提出物	20	
	その他	0	

履修上の留意事項	様々な解答法を講義形式で展開していく。類題の解法は数多くは実施しない。各人が反復して問題を解答することによってはじめて自分の力となる。家庭での復習が実力定着のカギとなるので、適宜宿題を与えたり、確認テストを実施する。（単元の評価にも関与する）知能は文字通り知的能力が試される科目である。決して難問ではない。何事にも柔軟な発想であきらめずにチャレンジすること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	数的推理　（阿部）	教養Ⅰの復習
	2	判断推理　（工藤）	うそつき①
	3	数的推理　（阿部）	通過算①
	4	判断推理　（工藤）	うそつき②
	5	数的推理　（阿部）	通過算②
	6	判断推理　（工藤）	順序関係①
	7	数的推理　（阿部）	流水算①
	8	判断推理　（工藤）	順序関係②
	9	数的推理　（阿部）	流水算②
	10	判断推理　（工藤）	順序関係③
	11	数的推理　（阿部）	時計算
	12	判断推理　（工藤）	位置・方位①
	13	数的推理　（阿部）	ニュートン算①
	14	判断推理　（工藤）	位置・方位①
	15	数的推理　（阿部）	ニュートン算②
	16	判断推理　（工藤）	位置・方位②
	17	数的推理　（阿部）	仕事算①
	18	判断推理　（工藤）	位置・方位③
	19	数的推理　（阿部）	仕事算②
	20	空間把握　（工藤）	暗号①
	21	数的推理　（阿部）	三角形と多角形①

	22	判断推理　（工藤）	暗号②
	23	数的推理　（輕部）	三角形と多角形②
	24	判断推理　（工藤）	手順
	25	数的推理　（阿部）	円①
	26	判断推理　（工藤）	暦・カレンダー
	27	数的推理　（阿部）	円②
	28	判断推理　（工藤）	数量推理
	29	数的推理　（阿部）	面積（三角形）
	30	判断推理　（工藤）	まとめ

授業科目	教養ⅡA	担当教員 実務経験	阿部幸雄 有：□　　無：■	
対象年次・学期	2 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	ショック・循環不全 B	担当教員	川島　清志		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・ショックの病態について理解し、対処する基盤を養う。（ショック時の輸液に対応する）				
到達目標	・ショックの病態、判断、処置について説明が十分にできる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
レポート	0	
小テスト	20	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	毎回の授業の始めに確認試験を実施。定期試験の点数に加算する。しっかり復習をすること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	循環障害について①	虚血と梗塞、うっ血
2	循環障害について②	浮腫、出血、血液凝固
3	総論	ショックの定義、病態生理
4	ショックを理解する上での基礎知識	循環動態、血液の流れ
5	循環血液量減少性ショック	発症機序、循環動態の変化
6	心原性ショック	発症機序、循環動態の変化
7	心外閉塞・拘束性ショック	発症機序、循環動態の変化
8	血液分布異常性ショック	発症機序、循環動態の変化
9	ショックに陥る病態	ショックの判断と種類、病態の理解
10	ショック傷病者に対する特定行為	クラッシュ症候群、輸液

授業科目	ショック・循環不全 B	担当教員 実務経験	苑田　裕樹 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う。
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	精神障害 B	担当教員	足立　卓也		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	・精神疾患と精神障害患者について理解する。				
到達目標	・精神障害者への対応ができる。				
テキスト・参考図書等	・配付資料　等				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	講義とビデオ教材を使用。居眠り厳禁！不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	精神科総論	精神障害・総論
	2	内因性精神病①	統合失調症①
	3	内因性精神病②	統合失調症②
	4	内因性精神病③	気分障害①鬱病
	5	内因性精神病④	気分障害②躁鬱病
	6	心因性精神障害①	神経症
	7	心因性精神障害②	人格障害
	8	その他	心因・外因性精神障害、精神科入院、救急対応、国試対策

授業科目	精神障害 B	担当教員 実務経験	足立卓也 有：■　　無：□	医療機関において医師として勤務し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	産婦人科疾患 A	担当教員	佐藤　真紀子		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・正常分娩と異常分娩について理解する。　・婦人科特有の病態について理解する。				
到達目標	・症状、所見から病態を鑑別し、適切な救急処置が行える。				
テキスト・ 参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・配付資料　等				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の 留意事項	レポートを課す場合がある。不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	産婦人科基礎	産婦人科系解剖生理、性機能、ホルモン、妊娠の成立と経過
	2	産婦人科基礎	母体と胎児の変化
	3	産婦人科基礎	産科に関する統計と生じている問題
	4	妊娠中の異常	子宮外妊娠、早産、流産、胞状奇胎、妊娠高血圧、他
	5	分娩	正常分娩の経過、正常分娩第Ⅰ期～第Ⅲ期
	6	分娩	呼吸法、異常分娩（破水、過強陣痛、子宮破裂）
	7	分娩のケア等	介助方法①（実習）
	8	分娩のケア等	介助方法②（実習）
	9	異常産辱	子宮内反、異常出血、shock、DIC、産褥期の異状
	10	まとめ	実践問題演習、解説

授業科目	産婦人科疾患 A	担当教員 実務経験	阿部鯛一 有：■　　無：□	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	中毒各論・環境障害 A	担当教員	岡本　博之		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・中毒の原因、病態、対処方法について理解する。　・環境障害が人体に及ぼす影響と、対処方法について理解する。				
到達目標	・中毒傷病者への対応ができる。　・環境障害傷病者への対応ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・配付資料　等				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	レポートを課す場合がある。不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	中毒①	中毒総論
	2	中毒②	中毒各論①（医薬品中毒・農薬中毒・工業薬品中毒）
	3	中毒③	中毒各論②（ガス・アルコール・自然毒・家庭用・乱用薬物）
	4	異物、救急隊活動	気道異物、チョークサイン、現場活動での注意点
	5	環境障害①	溺水・熱中症・低体温・放射線障害
	6	環境障害②	高山病・減圧障害・酸素欠乏・凍傷・紫外線障害
	7	環境障害での救急隊活動	現場活動での注意点
	8	実践問題演習　中毒	国家試験模試から抜粋した中毒に関する問題を解く
	9	実践問題演習　環境障害	国家試験模試から抜粋した環境障害に関する問題を解く
	10	まとめ	総合問題演習、解説

授業科目	中毒各論・環境障害 A	担当教員 実務経験	川島清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	心肺停止ⅡA	担当教員	阿部　鯛一		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	・心肺停止患者の病態・処置を学び、理解する。				
到達目標	・蘇生のメカニズムを理解し、心肺停止傷病者に対して、適切な活動ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	前回の授業の復習として確認試験を都度実施する。成績が悪い場合は、レポートを課する場合がある。不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	総論	定義と概念、疫学、ウツタイン
	2	心肺停止に至る病態と原因①	心肺停止時の病態、心肺蘇生の原理、心拍再開後の病態①
	3	心肺停止に至る病態と原因②	心肺停止時の病態、心肺蘇生の原理、心拍再開後の病態②
	4	心肺蘇生①	心肺停止の判断、心肺停止時の心電図変化①
	5	心肺蘇生②	心肺停止時の心電図変化②、AED、蘇生に関わる因子
	6	成人の CPR①	ガイドライン 2020
	7	成人の CPR②	成人・小児・新生児の BLS
	8	特定行為①	静脈路確保と輸液
	9	特定行為②	器具気道確保（上気道デバイス）
	10	特定行為③	器具気道確保（気管挿管）
	11	特定行為④	薬剤投与（アドレナリン）
	12	特定行為⑤	低血糖の判断とブドウ糖投与
	13	メディカルコントロール	具体的指示と包括的指示
	14	病院前救護体制	1 次・2 次・3 次病院の違いについて。年間搬送件数と重症度の割合
	15	まとめ	総合問題演習、解説

授業科目	心肺停止ⅡA	担当教員 実務経験	川島清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生命倫理 B	担当教員	麻生　尚志		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	・近年、先端医療において、従来の生命観と価値観が対立するような事例が生じ、それらを反映して医療をめぐる倫理観にも新しい変化が生じてきた。対象の意思を尊重し、人権と自由の保護を基盤とした生命と倫理について理解する。				
到達目標	・「命」について深く学び、相手の気持ちに配慮した傷病者対応ができる。				
テキスト・参考図書等	・配付資料　等				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	定期試験 50% 平常点（レポート提出他）30%
	レポート	0	
	小テスト	30	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	さまざま生命倫理の問題の中でも、今後、医療現場においてより深刻化することが予想される幾つかの問題に絞って授業を行う。実際に、「知識」をもつのではなく、「問題意識」をもつことが目標とされる。「知識」だけでは、実際に問題に直面したときに対処できない。受講者には自ら主体的に問題を問おうとする姿勢が求められる。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	生命倫理と医の倫理	生命倫理とは何か　人間の尊厳
	2	インフォームドコンセント	人間の尊厳　インフォームドコンセント
	3	傷病者の権利を護る立場から①	患者の自己決定権　善行の原則
	4	傷病者の権利を護る立場から②	功利主義　愚行権　尊厳死
	5	傷病者の権利を護る立場から③	安楽死にまつわる「滑り坂」論法
	6	傷病者の権利を護る立場から④	生活の質と生命の質、優生思想
	7	救急救命士の職業倫理	パーソン論　命の選別
	8	まとめ	生命の神聖さと生命の質　生命倫理まとめ

授業科目	生命倫理 B	担当教員 実務経験	麻生尚志 有：□　　無：■	
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	救急車同乗実習 B	担当教員	阿部　鯛一		
対象年次・学期	2 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	23 回	時間数	45 時間
授業目的	・実際に傷病者と接し、救急現場の状況を肌で感じ、救急救命士としての使命感や社会的意義を強く認識する。				
到達目標	・消防業務全般、救急現場活動の実体験を通じ、救急救命士としての専門性の能力を養う。 ※その他詳細は、別途配付の実習要領参照				
テキスト・参考図書等					

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	臨地実習指導者による実習評価
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	消防機関での救急車同乗実習を行う。実習前オリエンテーションの参加は必須。実習中の服装、態度がおもわしくない場合は実習を中止することがある。 ※その他詳細は、別途配付の実習要領参照

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	実習前オリエンテーション（6 コマ）	消防実習に行く上での心構え、規律、目標について学ぶ
	2	救急車同乗実習	各消防での臨地実習（2 当務または 5 日勤）
	3	症例発表（4 コマ）	実習先で経験した事案を学生間で共有

授業科目	救急車同乗実習 B	担当教員 実務経験	川島清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	看護学概論 B	担当教員	佐藤　真紀子		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・救急医療を行うチームとして存在する看護（師）について理解を深める。　・看護の実践から救急救命士として参考にできる事柄について理解を深める。 ・プレホスピタルとインホスピタルの連携について理解を深める。				
到達目標	・救急医療における看護と救急救命士との連携について自分の考えをまとめ、述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・配付資料　等				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	レポート 100%
	レポート	1	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	救急活動と関連の深い項目をとりあげ、その領域を専門とする外部講師による授業を予定している。授業後にその内容に関するレポート課題を提示し、評価とする。授業順番は講師により前後することがある。授業中の不明な点や疑問点に関しては積極的に質問し解決すること。授業最後にその内容からレポート課題を提示するため、しっかり学習に取り組むこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	看護とは？	看護学概論、看護の歴史、医療倫理
	2	救急看護①	精神看護領域について
	3	救急看護②	災害看護
	4	救急看護③	ドクターヘリの活動と役割
	5	救急看護④	救急救命士と看護師の関連性
	6	救急看護⑤	緊急検査項目の解釈/動脈血ガスの解釈
	7	コミュニケーション	観察とコミュニケーション
	8	病院実習	看護師と救急救命士/トリアージ編
	9	病院実習	医療チーム内での救急救命士の役割を理解する①
	10	病院実習	医療チーム内での救急救命士の役割を理解する②

授業科目	看護学概論 B	担当教員 実務経験	佐藤　希 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	中毒各論・環境障害 B	担当教員	岡本　博之		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・中毒の原因、病態、対処方法について理解する。　・環境障害が人体に及ぼす影響と、対処方法について理解する。				
到達目標	・中毒傷病者への対応ができる。　・環境障害傷病者への対応ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・配付資料　等				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	レポートを課す場合がある。不明点は、積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	中毒①	中毒総論
	2	中毒②	中毒各論①（医薬品中毒・農薬中毒・工業薬品中毒）
	3	中毒③	中毒各論②（ガス・アルコール・自然毒・家庭用・乱用薬物）
	4	異物、救急隊活動	気道異物、チョークサイン、現場活動での注意点
	5	環境障害①	溺水・熱中症・低体温・放射線障害
	6	環境障害②	高山病・減圧障害・酸素欠乏・凍傷・紫外線障害
	7	環境障害での救急隊活動	現場活動での注意点
	8	実践問題演習　中毒	国家試験模試から抜粋した中毒に関する問題を解く
	9	実践問題演習　環境障害	国家試験模試から抜粋した環境障害に関する問題を解く
	10	まとめ	総合問題演習、解説

授業科目	中毒各論・環境障害 B	担当教員 実務経験	川島清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		